

令和7年度 学校評価の結果と今後の改善について



栃木市立皆川城東小学校

保護者の皆様には、11月に実施しました学校評価「教育に関するアンケート」にご協力をいただき、ありがとうございました。学校の取組への肯定的な回答をたくさんいただくことができました。アンケートは、教職員・児童にも実施し、3者の回答を比較分析しました。本年度の学校教育目標への取組の振り返りとなりました。成果や課題、今後の改善策について教職員で協議したものをまとめましたのでお知らせいたします。

成果が見られたこと

以下の項目では、児童・保護者・教職員とも「とてもそう思う」「そう思う」との肯定的な回答の割合が高い傾向が見られました。成果が得られたことについては、今後も保護者の皆様と連携しながら、子どもたちの姿を通して、さらなる充実を図ってまいります。

①思いやり、人権尊重の心の育成

肯定的な回答の割合 (%)	教職員	児童	保護者
	100	99	93

③小中一貫教育・交流学習の教育的効果

肯定的な回答の割合 (%)	教職員	児童	保護者
	100	89	95

④ボランティアの活用による教育的効果

肯定的な回答の割合 (%)	教職員	児童	保護者
	100	93	95

⑤生き生きと楽しい学校生活に関する項目

肯定的な回答の割合 (%)	教職員	児童	保護者
	100	93	95

⑥安全教育・危機管理に関すること

肯定的な回答の割合 (%)	教職員	児童	保護者
	100	94	94

⑦学校や地域（社会）のルールを守ること

肯定的な回答の割合 (%)	教職員	児童	保護者
	100	94	94

- 「心のゆたかな子ども」の項目全体での成果が大きく見られました。本校の児童のよさである、人権意識の高さ、思いやりの心がアンケート結果に現れていました。家庭や地域での温かな関わりが、子どもたちの成長により影響を与え、成果となっていると思います。また、ルールも守ることができる子どもが多いことも、ご家庭や地域のご指導のお陰と考えています。特別支援学校との交流学習も大きな成果と思います。将来、社会で多様な他者と関わる力が身に付いていることは大切なことです。
- ボランティアの活用による教育的効果が現れています。児童たちを見守っていただいたり、褒めていただいたりすることで、児童たちは安心して学び、自尊感情を高めることができていると考えられます。「できる人が・できるときに・できることを」の考えで今後もボランティアへの協力をお願いいたします。
- 安全教育・危機管理面では、学校では多様な災害を想定して避難訓練を実施しています。自分の命を守るための行動ができるよう、「自分で判断する」意識を高める指導の工夫をしてきました。予告なしの避難訓練の実施や、保護者の方にも引き渡し訓練に参加していただき児童の危機意識を高めるよい機会となっています。今後も、訓練や安全への意識を高めるための取組を実践していくようにします。
- 学校が楽しいとの回答が多い中、少数ではありますが、学校が楽しくない、と回答した児童がいることを学校は真摯に受け止め、みんなが楽しく過ごせる学校づくりの工夫をしてまいります。

課題が見られたこと

①「本気で学ぶ子ども」

自分の考えを伝えること

肯定的な回答の割合 (%)	教職員	児童	保護者
		79	77

家庭学習の取組・在り方について

肯定的な回答の割合 (%)	教職員	児童	保護者
	91	80	66

②「根気づよい子ども」「元気な子ども」

運動意欲の向上と体力作り

肯定的な回答の割合 (%)	教職員	児童	保護者
	91	85	87

メディアの利用時間のルールを守る

肯定的な回答の割合 (%)	教職員	児童	保護者
		92	78

①の「本気で学ぶ子ども」に関する内容の評価は、他の目標内容の評価に比べ、低い傾向が見られました。特に家庭学習の在り方や習慣化に課題が見られました。また、自分の考えを伝えることに自信がもてないという評価をしている児童も一定数いました。

- 本校の児童の傾向として、「自分の考えを発信すること」に苦手意識をもっている児童が少なくないようです。学校の授業や活動を通して、自分の考えを伝える必然性をもたせたり、伝え合う楽しさやよさを味わえたりできるように授業改善を推進していきます。
- 家庭学習は、発達段階に応じて、「自主学習」を学校として進めていくことを考えています。自分の興味のある内容、自分がやらなくてはいけない内容、自分の習熟に合った内容であることが、主体的に家庭学習に取り組むきっかけになります。好きなことを生かして得意なことを伸ばすことも、個に応じた学習指導につながると考えます。また、ICTを使用した家庭学習を今後も取り入れていくようにします。家庭と協力して主体的に取り組める家庭学習、家庭学習の取組の定着を図れるよう工夫していきます。

②の「根気づよい子ども」「元気な子ども」に関する評価は、昨年度と同様に、運動意欲と体力の向上に課題が見られました。また、現代的な課題でもありますメディアの利用については、児童と保護者で評価のずれが見られました。

- 体育の授業の中で、子ども一人一人の目標をスモールステップで達成させていくことで、達成感から運動の意欲を高めていくように、工夫を継続していきます。本年度の「しろやまマラソン走」では自分で走る距離（目標）を決めて取り組んでいたことも意欲の向上につながられたと考えています。
- 最近の子どもたちは、生活の中で必然的な運動の機会がもてない現状があります。休み時間や昼休みの外遊びの奨励をすると共に、子どもたちが好きな活動（なかよし班活動）で仲間と一緒に体を動かして遊ぶ機会を設けるなど、工夫をしていきたいです。また、食育や保健指導との関連も図っていくようにします。
- メディアの利用時間につきましては、学校での情報モラル教育の一環として引き続き指導をしていきます。子どもたちがメディアを適切に利用することができるようなルールの例を学校でも示すことを考えております。

その他のご意見から



・教育方針や教育活動・児童の活動の発信について

⇒ 教育課活動への関心をもっといただき大変ありがとうございます。子どもたちの活動の様子は、学校便りやホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。教育方針等につきましては、保護者の皆様に理解していただけるように、発信の場を今後工夫してまいります。なお、保護者宛の通知は多くがメールでの配信となっております。メールのご確認もよろしくお願いいたします。

・施設設備の修繕について

⇒ ご心配いただいているとおり、校舎等の老朽化が進んでおりますが、修繕が必要と判断した時点で、栃木市教育委員会教育施設課と連絡を取り合い、校舎や設備の改修・修繕を行っております。なお、点検事業につきましては、教職員、専門業者、教育施設課等で行い、安全の確保を図っております。

・運動会の競技について

⇒ 半日開催のため、たくさんの競技を実施することは難しいのですが、子どもたちが主体的に参加できる運動会を実施することは大切であると考えています。子どもたちの意見を取り入れながら、実施する競技や内容を決めていくことを進めていきます。運動会に限らず、様々な行事や活動で児童の意見を尊重して計画・運営を進めることで、楽しく、居がいのある、学校づくりに努めてまいります。

